

第1回新潟市ブックスタート推進委員会会議録

日 時：平成22年6月3日（木）午後1時30分～3時

場 所：中央図書館3階 ビーンズホール

次 第

- 1 開 会
- 2 教育長挨拶
- 3 委員自己紹介
- 4 議 事
 - (1) ブックスタート事業の推進について
 - (2) 基本方針策定に向けて
- 5 その他
- 6 閉 会

出 席 者

市 民 委 員： 神林委員，正道委員，錦委員，渡辺委員，（欠席：仁多見委員）

市役所関係課： こども未来課渡辺委員，保育課木村委員，保健所健康衛生課神部委員代理安達委員，生涯学習課玉木委員，中央公民館和田委員代理丸山委員，教育次長（中央図書館担当）八木委員，中央図書館サービス課山下委員

事 務 局： 鈴木教育長，内山課長，持田補佐，加藤館長（豊栄），三田館長（新津），石口館長（白根），松原館長（西川），子安係長，中村副主査，小林副主査，石田補佐

傍 聴 者 1名

1 開 会

(司 会)

ただいまから、第1回新潟市ブックスタート推進委員会を開催させていただきます。

なお、当推進委員会は市民の皆様には公開しております。本日傍聴される方はお一人いらっしゃいますので、よろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、鈴木教育長よりごあいさつを申し上げます。

2 教育長挨拶

(鈴木教育長)

教育長の鈴木でございます。

ブックスタート事業、懸案でございましたが、ようやく第1回目の推進委員会を立ち上げることができました。推進委員の皆様には、お忙しい中、委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

ご案内のとおり、市は子どもの読書環境の整備を図るために、新潟市子ども読書活動推進計画をこの3月に策定いたしました。このブックスタート事業は、計画策定のための有識者会議委員から提案がございまして、未就学児を対象とした事業として、平成23年度の実施に向けて、推進委員会が開催される運びとなりました。

ブックスタート事業は、子どもの読書活動の推進はもちろんのこと、昨今、乳幼児とどう触れたらいいかわからない保護者が増えてきているように聞いておりますが、そういった保護者を含めて、すべての保護者に対しまして、本の読み聞かせの大切さを理解してもらい、乳幼児と保護者が本を介してゆったりとした心のふれ合いをもつための一助となるために支援していくという事業でもあります。大変すばらしい事業を始められることができると喜んでおりますが、一方、この事業の目的が広く浸透するためには、知恵と工夫が必要だとは思っております。この事業が単なるプレゼントで終わらないために、委員の皆様からは忌憚のないご意見をいただきまして、よい形でブックスタート事業が来年スタートできますよう、お力添えをお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。

(司 会)

本日お配りいたしました資料の確認をしていただきたいと思います。皆様の机の上にお配りしております。第1回新潟市ブックスタート推進委員会次第というところから、最後のスケジュールまでの一括りのものと、あとは、配付資料一覧表ということで、1番の平成21年度政令

市ブックスタート実施市の状況から6番目、最後の新潟市子ども読書活動推進計画といったものを資料として一まとめにしてお配りさせていただいております。なお、資料につきましても、あとで簡単にご説明させていただきたいと思っております。お配りさせていただいたものは、以上の二つにまとめたものでございますが、よろしかったでしょうか。

ありがとうございます。それでは、次第に従いまして進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

次第3、委員自己紹介ということですが、市民委員の皆様には、それぞれ、今、どのような活動をなさっているかということをお話を入れて自己紹介させていただきたいと思っておりますし、庁内の委員の皆様につきましては、それぞれの課で本年度どういった乳幼児関係の事業をなさっているのか、これからなさろうとされているかということを入れていただきたいと思います。

3 委員自己紹介

(八木委員)

今日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。私は事務局の立場と、今回、委員長をやれということで、進行役を仰せつかることになっております。

このブックスタート事業については、2年間の有識者会議の中で、ぜひ進めてほしいということ、その計画についてのパブリックコメントの中でも、多くの方からご意見をいただいたところです。この事業が、図書館だけの事業ということではなくて、いろいろな観点から意義のあることだと言われておりますので、全市を上げて取り組むということで、教育委員会、あるいは全市的な事業ということで位置づけて考えていきたいと思っております。

もう1点は、単なる事業の一過的なものではなくて、継続的に取り組んでいくということに意義があるのだらうと思っておりますので、いわゆるブックスタート事業ということではなくて、ブックスタート運動というようなところまで広げられればありがたいと思っております。そのために、身近なところから大人の方々に趣旨を広めていくということが大事なのかなと思っております。そのようなことで、行政の委員の皆様、もちろん市民の委員の皆様にもよろしくお願ひしたいと思っております。

委員の自己紹介にはなりません、そのようなことで、よろしくお願いいたします。

(神林委員)

私が一番活動して力を入れているのは、山の下図書館の「おはなしのじかん」です。新潟市になって、いろいろな読み聞かせグループがあって、合同で自主研修会の活動が始まり、その

世話人代表をお引き受けした関係でこの席に着いているのかもしれませんが、ブックスタートをやるのなら末端で関わりたいと常々思っていましたもので、実は大変喜んでおります。どのくらい力になれるか分かりませんが、皆さんと仲良くやりたいと思います。よろしくをお願いいたします。

(正道委員)

童話や絵本のテキストを書いております。また、この前の新潟市子ども活動推進計画の有識者会議のメンバーということで参加させていただきました。個人的には、平成4年から絵本の読み聞かせボランティアにも参加しておりまして、地域の子どもたちに公民館や小学校、幼稚園、保育園などに絵本を持って出前に行ったり、講演会をしてくれというので、ブックスタートのボランティアさんにお話をしたり、小さい子どもを持つお母さん方にお話をするとということもありました。ブックスタート事業が始まった時点からこのことに興味を持って、いろいろ関心を持ってまいりました。どれほど役に立つか分かりませんが、よろしくをお願いいたします。

(錦委員)

私は、今から10年以上前ですけれども、秋田市で自宅を開放して家庭文庫をやったのです。石井桃子さんの『子どもの図書館』という本が私のバイブルで、何も知らないところで、しかも知人も親戚もいないところで勝手に文庫を始めたのですけれども、これが私にとっても、子育て1年生で母親1年生でしたけれども、知らない土地で、私自身も非常に子どもたちに教えられることも多くて、しかも、本を手渡すということが子どもたちにとってどういうことなのかとずっと考えながら文庫をやっていたのですけれども、例外なく子どもは本の読み聞かせが大好きです。嫌だと逃げる子は誰もいませんでした。これは17年間家庭文庫をやってきて、私の実感なのですけれども、本当に子どもというのは好きです。それで、昨日よりは今日、今日よりも明日と成長しようと子ども自身が思っていて、そこに絵本を読み聞かせをするということは、何物にも代え難いような私の喜びでもありました。

ブックスタートの委員になって私が改めて思うのは、今、母親たちが母乳を飲ませながら携帯をしているという現状なのです。子どもはしっかりとお母さんの顔を見ながら、目を見ながらおっぱいを飲んでいるわけです。それを大人はそちらを向いて携帯にうつつを抜かしているという現実があります。そういう中でブックスタートをし、まず、お母さん方に本を手渡すということは、今の時代、ものすごく大切なのではないかと思って、私は非常にこの企画に張り切っている次第でございます。よろしく申し上げます。

(渡辺委員)

中央図書館の図書館協議委員としてこちらにお世話になっておりますが、元々は沼垂図書館

のあった時代にボランティアの講座などを受けさせていただいて、「おはなしのじかん」でボランティアをするようになりました。私も県外出身者なのですが、こちらに来て15年近く経ちますけれども、読書活動が盛んな土地だということにとっても感心しまして、まだ子どもが小さかったのですけれども、子どもを保育室に預けながら講座を受けられるいろいろな企画があって、本当に子育てしながら楽しい時間を過ごさせていただいた経験を持っております。そういうこともあって、そのあと豊栄に移り住んで、豊栄の図書館のボランティアをやらせていただいています。そちらも図書館創立から関わって10年経ちますけれども、図書館、絵本とともに子育てをしたという経験を少しでもこのブックスタート事業に生かせればいいなと思っています。

今現在思っているのは、民生委員の仕事もしております、主任児童委員という仕事に関わっているので、小さいお子さんをお持ちのお母さんたちに会うことがけっこうあります。そういうところで、本を通して子育ての楽しさなどを伝えられればいいなと思っています。よろしくお願いします。

(渡辺委員)

4月にまいりました。こども未来課ですので、大体の事業はほとんど子どもに関わっていますので、今、一番のものは子ども手当ででしょうか。こちらの事業もやっておりますし、児童虐待の関係も児童相談所とともにやっております。そして、昨年からですけれども、今回、6月に出来ますけれども、次世代育成支援対策行動計画という、新潟市の子どもに関するアクションプランということで、5年の計画ものを今回策定しました。これからは、子育て支援ということで、この計画に沿って5年間やっていきたいと思っています。

(木村委員)

保育は乳幼児ばかりが相手なので、特段、事業の説明は省かせていただきます。今年度の事業なのですが、新潟市の全保育園、それから幼稚園、子育て支援センターに絵本を配ろうと思っています。実は、今までも保育園には、私立、公立を含めて、絵本は多少持っています。どのようにやってきたかという、それぞれの園長先生の考え方一つで絵本の文庫ができたり、あるいは全然絵本がなかったりということで、それぞれ園長先生任せにしてきたところの反省も含めて、今回、たまたま国からお金が出たものですから、全園に大体300冊くらいをめぐりに配りたい。今回のブックスタートに合わせた形で、本を通じて子どもたちの健やかな育ちというものを促していきたいと考えています。詳細については、これからこのような形で推進委員会というものを組織しまして、市民の方にも入っていただいて、未来ある子どもたちを育てていきたいと考えています。

本に関してはそのような形で、この会でも皆さんの考え方を吸収しながら、保育園の現場で

生かしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(安達委員(神戸委員代理))

本日、神戸課長が他の会議に出かけておまして、代理でまいりました。

私の課は、8区の健康福祉課の職員の皆さんと一緒に、母子保健、健診や育児相談、離乳食の講習会といったことについて、一緒にやっているところです。保健所はどちらかというそのとりまとめをしていくという役割です。児童虐待や保育園の先生方との連携強化といったことは、こども未来課や保育課とも連携をしながらやっているところです。どうぞよろしくお願いいたします。

(伊田委員)

中央区ということですので、ほかに7区ございますけれども、多分、中央図書館から一番近いところということで私たちが選ばれたのではないかと考えています。そういう中で、8区同じ事業を展開しております。先ほどの健康衛生課が元締めでございますが、その実施舞台としては、それぞれの区の健康福祉課、その下の実施機関のところに地域保健福祉センターが各区に2か所ないし3か所ございます。多分これからスタートするであろうブックスタートの現場になるのかなと考えております。私どもの課では、ゆりかごから墓場までということで、健康増進、児童福祉、障がい、高齢介護、地域福祉係ということで大所帯になっているところでございますが、今回、この事業に関しては、健康増進係が担当することになるかと思っております。

その中で、実際にうちが乳幼児の事業でどういうことをやっているかといいますと、先ほどお話しがありましたように、まず、健診です。一つは歯科検診、それから予防接種、それから股関節検診、1歳半健診等がございますけれども、それも医療機関に委託している事業もありますし、実際に私どものほうに来ていただいて健診を受けるという部分もたくさんございます。その中で、どういう形であれば一番できるのかということをご一緒に考えてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(玉木委員)

生涯学習課は、名前のおり一生涯の学習をお手伝いするところですがけれども、課そのものは直接的な事業をやっているわけではございません。特別、子どもたちの支援が行われているところではないのですが、二つほどご紹介させていただきます。一つは、地域の教育力、家庭の教育力が、今、どうなっているかということ。10年ほど前からそのことは話題になっているわけですが、新潟市において、その二つの実態がどうなっているかを今後調査していきたいということで、今年着手いたします。家庭の中、それから地域の中でどのような教育力に関する活動が行われているかについて、明らかにできればと思っております。

二つ目は、内閣府が「子ども・若者育成支援推進法」という法律をこの4月1日から施行いたしました。若者の課題を解決するための支援ということにしておりますけれども、ゼロ歳から30歳代という幅の広いものでございます。今日は、教育相談センターの所長とお話をしてきたのですが、ゼロ歳から30歳まで持っている課題というのは非常に関係性が深く、教育や福祉や健康や雇用といったものが全部関わっている中で解決していかなければならない問題がたくさんあるという話も聞いてまいりました。そういう中で、小さなお子さんたちの関わりをどうしていくのかということも考えていきたいと思っております。具体的な事業ではありませんけれども、そうしたネットワークづくりをさせてもらいたいと思います。よろしく願いいたします。

(丸山委員 (和田委員代理))

館長の和田が他の用事でこちらに出席することができませんでしたので、代理で出席させていただきます。

新潟市内の公民館は、地区公民館が全部で24館、分館を含めると61館ございまして、それぞれの公民館で乳児期、幼児期の家庭教育学級というものを実施しております。その中で、お母さんたちがお子さんの成長ですとかお子さんとの関わり方について学んだり、お母さん同士の仲間づくりということを進めております。その他にも、お母さんたちの子育てについて相談できる子育てサロンですとか、お子さんとお母さんの居場所ということで、フリースペースなども公民館に設けております。そういった事業を乳児期、幼児期に実施しております。よろしく願いいたします。

(山下委員)

事務局ではなくて、委員という立場で発言させていただきます。図書館は資料や情報の収集と保存、それから提供が仕事になるわけですが、今、新潟市は18図書館29地区図書室がございまして。中央図書館が開館されてから、今までに大勢の方が来館されています。中央図書館の子どもとしゃかんには、特に土曜日、日曜日、祝日などには、今回の対象となるような乳幼児の子どもを連れてお父さんやお母さんが大勢おいでになっております。ただ、図書館側で見ますと、もっと子どもたちに本を届けたいのだけれども、図書館に来ていただくためにはどうしたらいいのかということが課題になっています。ブックスタートは、今までもいろいろな市民の方からぜひやっていただきたいというご要望をいただいていたので、来年度から取り組みを行うことができるようになりましたので、この推進委員会の皆さんのご意見やお力をお借りして、連携させていただいて、よいスタートを切らせていただきたいと思っております。

あと一つだけ、私は二十数年前に子育てを経験しましたが、とてもだめな親で、どうやって良かったのか、どうやって声をかけたらいいのかということがよくわからなかったの

です。それが、たまたま図書館に勤めていたということもあったのですが、1冊の絵本がきっかけで子どもとふれあうことができたという思いを強く持っております。今の若いお母さんお父さんも、そういう人たちが多いのかなと思いますと、ブックスタートが子どもの読書活動の推進ということだけではなくて、親子の関係を作る、豊かなものにするという働きがあると思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

皆様、大変ありがとうございました。皆様方のご経験やそれぞれの立場でたくさんいろいろなことをなさっているということがよく分かりました。ぜひ、当委員会でそういった皆様方のご意見を存分にお話しいただきたいと思っております。ありがとうございました。

続きまして、事務局を紹介させていただきます。事務局は、簡単に自己紹介のみということでお願いいたします。

(司 会)

4 中心図書館の館長方に、今回、ブックスタートは各区でやっていただくということで、北区であれば豊栄図書館の方に事務局となってやっていただくということでおいでいただいております。

それでは、議事に入らせていただきたいと思っておりますが、その前に、新潟市ブックスタート推進委員会設置要綱第3条により、中央図書館を所管する八木教育次長を当委員会の委員長といたします。また、同要綱第4条によりまして、八木委員長を議長とさせていただきます。ここからは、八木議長から議事を進行していただきたいと思っております。

(八木議長)

私は教育次長と併せて中央図書館の館長を兼ねておりまして、事務局の立場もございまして、発言が少しぶれるかもしれませんが。事務局になったりするかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

それから、この推進委員会の役割についてはあくまでも意見交換をフリーにさせていただき、そして場合によっては市民委員からは行政関係に対するご要望なりも含めたご意見をいただく。併せて、行政委員からは、それぞれのセクションを超えた情報交換、認識共有の場というように考えております。何せブックスタート事業も予算が絡むものですから、実際には行政で予算をどうする、物理的に場所をどうするというような話で、そういった諸制約はあろうかと思っております。最終的にはそこら辺をクリアしながらということになりますので、この推進委員会については決定の場というようには考えておりません。様々なお立場、それぞれのお立場からご意見ご要望をいただきながら、意見交換の場と考えております。したがって、ざっくばらんにお気軽にご発言いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

いたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

4 議 事

(1) ブックスタート事業の推進について

最初に事務局から、「ブックスタート事業の推進について」説明をお願いいたします。

(事務局)

次第を1枚めくっていただきまして、ブックスタート事業の推進についてというところをお聞きいただきたいと思います。

まず、1番の背景でございますが、ここに書いてあるとおりでございます。ブックスタートとは云々ということが書いてございますが、1992年にイギリスで始まりまして、日本では、2000年の子ども読書年で紹介されまして、同年、東京都杉並区での試行以降、全国に広がっております。最近、NPOのブックスタートというところからお聞きしたのですけれども、2010年2月現在、日本国内で718自治体がブックスタートを実施しております。それと、新潟県内では、新潟県の生涯学習推進課が今年の3月に調査をしたのですけれども、県内では31市町村のうちの24市町村が実施をしています。去年は25市町村だったのですけれども、一つお止めになったということで、県内は77.4%実施をしています。

ここに書いてはございませんが、新潟市は今までどういう経過をたどってきたかと申し上げますと、平成13年ころから昨年まで6回ほど市議会で質問・要望が出ております。ぜひブックスタートをやってほしいといったことだったのですけれども、そのときはまだこの中央図書館はございませんでしたので、その時々ところで市長が答えたり教育長が答えたりということで、「まだ様子を見てから」、「他都市の状況を見てから」という回答をしていたのですけれども、平成16年度に「次世代育成支援対策行動計画」の策定に当たって、「その中で検討していきたいと思います」という方針を出されたと聞いております。その検討をした結果、非常にいろいろな事業がある中で優先度が低いということで判断して、新潟市としてはその時点ではブックスタートは見送ったということでございます。その後、やはりいろいろと1年に1回くらいずつご意見、ご要望をいただいていたのですけれども、この中央図書館ができてからは、「新潟市子ども読書活動推進計画」の中で検討していきますという新潟市としての方針を決めまして、2年間検討する中で有識者会議委員の中からも提案がありましたことから、平成23年度からブックスタートをやっていこうというように決まったものでございます。

2番の目的でございますが、「新潟市子ども読書活動推進計画」に基づき、乳幼児を持つ保

護者に読み聞かせの大切さを理解してもらい、乳幼児期から日常的に絵本に親しむ気運を醸成すると。併せて、乳幼児と保護者が絵本を介してゆったりとした心のふれ合いを持つための一助となるように支援をしていきたいと。先ほど来、教育長のあいさつ、また、八木議長のあいさつからもありますように、子どもは単に本を渡すだけの事業とは考えておりません。併せて子育て支援、それから各区で実際に実施していくということで、地域で子育てを見守っていくというようなことも踏まえている事業だと考えてやっていくつもりであります。

続きまして、3番の推進体制ですが、本日皆様にお集まりいただきました推進委員会の設置ということでございますけれども、次のページをめくっていただきまして、別紙1、新潟市ブックスタート推進委員会設置要綱（案）となっておりますが、今は案は取れてございまして、推進委員会として、今日、スタートさせていただきまして。所掌事務といたしましては、「（1）ブックスタート事業の基本方針の策定に関する事」ということですが、皆様方からそれぞれの経験やご担当なさっているところからのご意見をいただく、基本方針の策定にぜひお力を貸していただくことを願っております。（2）につきましては、推進について、皆様方から「関係課・機関相互間の調整に関する事」ということですが、それぞれいろいろなところでは素晴らしい事業をやっていらっしゃるのですけれども、そういったところにブックスタートなども入れて調整していただきたいということでもあります。あとは、「その他ブックスタート事業推進に関する事」ということで、皆様方には、こういった3本の事務をお願いしたいと思っております。

組織につきましては、もう1枚めくっていただきまして、別表1、別紙1から2枚目でございます。市民委員の方々に5名お願いさせていただきまして、市役所関係課ということで、乳幼児関係の事業をなさっている関係課から8名の方にご出席いただいております。

また要綱に戻っていただきたいのですが、この推進委員会の中にワーキンググループを設けさせていただいております。これはまた先ほどの別表1の次の別表2で、子ども事務局で特に乳幼児関係の事業をなさっている関係の深いところということで、子どもでお願いさせていただきました子ども未来課、保育課、保健所健康衛生課、中央区健康福祉課、教育委員会では中央公民館、中心図書館、子どもということで、総勢12名でワーキンググループを構成させていただきました。すでに関係していただいた課からは、構成員の推薦もいただいております。

要綱の2枚目でございますが、この推進委員会の期間といたしましては、「平成23年3月31日までとする」と。主に、この基本方針の策定のご意見をいただくということでございますので、3月31日をもって推進委員会は解散ということにさせていただきます。

それから、別紙2を開いていただきたいのですが、新潟市ブックスタート推進体制ということで、子どもの考えている体制なのですけれども、推進委員会の皆様の中に、先ほど別

表2のところでご説明させていただきましたが、ワーキンググループを作りまして、ワーキンググループで基本方針案を作成していただきたいと思っています。それから、ここで絵本の選定、配布物の決定や、あとは全体的な広報の検討、主だったものはこういったことを考えております。これらのことを揉んでいただきまして、それらを推進委員会に提案していただくという形を考えております。その下でございますが、上、下というのも少し変なのですが、ブックスタートは各区で実際にやっていただきたいと思っています。やっていただくこととなりますが、それぞれ各区で実行委員会を北区実行委員会から西蒲区実行委員会ということで実行委員会を作ってもらいまして、ここで推進委員会をとおして策定いたしました基本方針に基づきまして、それぞれ各区でどのようにやっていくか、事務の流れ的なものになってもいいかと思いますが、各区の実施計画を策定していただく予定でおります。あとは、ブックスタートボランティアの各区での調整、各区の広報を検討、区だよりなどに載せていただくような検討といったことをしていただきます。ブックスタート推進委員会は、こういった体制で進めていきたいと思っています。

またブックスタート事業の推進にお戻りいただきたいと思います。4番の実施についてですけれども、(1)実施方法、すでに先ほど来いろいろな方が申し上げておりますので、皆さんお分かりになったかと思いますが、乳幼児とその親に絵本の読み聞かせの方法や意義などを話し、実際に絵本の読み聞かせをやって見せまして、その後絵本を手渡ししたい。これが理想かなど、基本的にはこのようにやりたいと思っています。(2)対象でございますが、新潟市に生まれたすべての赤ちゃんと保護者を対象とさせていただきます。(3)実施時期につきましては、平成23年度からと考えておりまして、今年度はその準備期間ということでございます。

次の5番、準備スケジュールですが、ここの一括りの書類の一番最後、別紙3をお開きいただきたいと思います。推進委員会のところを見ていただきます。第1回推進委員会はこの6月ということでやらせていただいております。それから、第2回推進委員会は9月を予定させていただきます。これは、一つ飛ばしまして、ワーキンググループで6月から8月の間に基本方針案の作成や絵本の選定などを作ってもらいまして、それらを皆様方に揉んでもらうと。またそこでご意見などをいただきながら、よりよい基本方針を策定していくということで考えております。第2回目は9月を予定させていただきます。そのワーキンググループの下でございますが、各区実行委員会ということですが、各区の実施計画策定につきましては、ワーキングが終わって皆様からお諮りいただいて作成された基本方針をもちまして、ここから各区の実行委員会をスタートしていただきたいと思っています。今考えておりますのは、一番最初に関係されている8区全部の関係者を集めまして、NPOブックスタートの方をお願いして、講演会やワークショップのやり方の勉強会などをしてからスタートしていきたいと思っています。

す。各区の実行委員会は12月までの間にそれぞれの区のやり方を決めていただきまして、実施計画をお作りいただいて、それらを全部まとめて持ち寄りまして、第3回推進委員会、1月を予定してございますが、こちらで皆様にご承認をいただきたいというスケジュールになっております。推進委員会につきましては、都合3回を予定しております。

最後に、ブックスタートボランティア養成というところをご覧いただきたいのですが、今現在、ボランティアをしていただいている方、ダブっている方もいらっしゃると思うのですが、延べ300人くらいいらっしゃる聞いております。その方々の活動意向調査を、6月13日にグループの交流会が開かれる予定と聞いておりますので、そこで皆様に調査をお願いしたいと思っています。あなたはどこの区で活動できますか、1回、2回、3回とか回答をいただくのですが、何回くらいご協力いただけますかといったことを全部の方に調査をいたしまして、7月半ばくらいにまとめさせていただきたいと思っております。その後、大体何人足りない、どこの区はどのくらい足りないということがわかりますので、それらを基にして、9月に新規のボランティアを募集したいと思っております。それで、その募集した新規のボランティアの養成講座を10月半ばから12月半ばくらい、連続3回で開催する予定でおります。既存のボランティアにつきましては、12月に講座を開催させていただく予定でおります。ボランティアにつきましては、合わせて300名くらいの方に登録させていただきたいと考えております。

それから、広報、実施準備ですが、12月にすべて体制整備をさせていただきまして、1月、2月、3月はポスターを作ったり、それぞれ関係の医師会やいろんなところをお願いに回ったりといった広報、それら実施準備に当てたいと思っております。

以上、ブックスタート事業の推進ということで、簡単ではございますが、説明させていただきました。

それから、当初の次第には書いてございませんが、今回ご用意させていただきました配付資料につきましては、簡単に説明させていただきたいと思っております。配付資料をご覧いただきたいと思えます。配付資料一覧に基づきまして、順次説明させていただきます。まず、平成21年度の政令指定都市ブックスタート実施市の状況ということで、平成21年度段階では、札幌から福岡まで、9市の政令指定都市でブックスタートをやっております。対象は、どういった時点を捕まえてやっているか、会場はどこか、対象月齢はといったことをまとめさせていただいております。これらを基に、私どもも一番いい形で進めていきたいと思っております。

2番目、パブリックコメントの実施状況ですが、「新潟市子ども読書活動推進計画」のパブリックコメント時の皆さんからのご意見とそれに対する市の考え方ということで用意しました。全部で18件のうち14件、ブックスタートに対してご意見をいただいております。ぜひ実施してほしいとか、期待されているのかなという状況でございます。

次に、新潟日報の掲載記事です。市が「新潟市子ども読書活動推進計画素案」を作りましたという中で、3段目から、市内に住む全乳幼児に絵本を贈呈し、読み聞かせなどを保護者にアドバイスするブックスタート事業の実施を視野に云々ということでございます。市民にもこれで十分お示しできているのかなとも思います。それから、次の長岡市のブックスタートレターですが、長岡市は2003年からブックスタートを実施いたしておりまして、ブックスタートを始めただけでもそれで終わりということではなくて、こういうブックスタートレターを作りまして、ブックスタートをやっている人たちだけ、もらった人だけではなくて、市民にもブックスタートが進んでおりますということを知らせるために、作って配布しているということで、参考までに皆さんに見ていただきたく、ご用意させていただきました。

5番目、NPOブックスタート資料ということで、パンフレットや「ある日のブックスタート」、それから「ブックスタート赤ちゃんと絵本で楽しくコミュニケーション」等、あとで皆様に見ていただきたいということでご用意させていただいております。

最後に、「新潟市子ども読書活動推進計画」ということで、以上、資料をご用意させていただきました。

(八木議長)

ここまでで、まず、何かご質問はございますか。今ほどの資料関係、当日配付で恐縮ですが、斜め読みしていただいて、何かご質問がありましたら遠慮なくご発言いただければと思います。

特にないようでしたら、次に移りたいと思います。

(2) 基本方針策定に向けて

(八木議長)

「(2) 基本方針の策定に向けて」に移らせていただきますが、その前にビデオを視聴していただくということで、皆さんご専門の、ご経験の深い方々もおいでになるのですが、ブックスタートを実際にやっている様子を映写させていただきたいと思います。皆様とブックスタートに関する共通認識を持ちたいということで、ほんの10分ばかりの映写時間になりますので、よろしく願いいたします。

(ビデオ上映)

(八木議長)

議事の2番に入りたいと思います。「基本方針の策定に向けて」ということで、スケジュールのところでご説明申し上げましたように、次回、9月初旬くらいをめどに第2回ブックスタート推進委員会を持たせていただきたいと思います。その際に、行政のワーキングで実施方法

等について、詳細な部分を叩きとしてご呈示したいとは思っておりますけれども、まず、この基本方針の策定に向けての委員の皆様からの基本的な方向性について、何かご意見やご質問、ご要望などがあれば、あらかじめお伺いしておけたらと思っております。これが議事の「(2)基本方針策定に向けて」という部分になります。いかがでしょうか。多分、まだこちらでご説明し切れていない部分があるかと思しますので、忌憚のないところをご質問いただければと思います。

(錦委員)

基本の中にブックスタートのスタート、子どもの年齢というか、何か月健診のときとかは具体的にまだそれはこれからなのですか。例えば、先ほどのビデオですと、9か月、10か月健診のときに手渡すということがありましたよね。そういうときは、私たちはいつごろ手渡すという予定はあるのでしょうか。

(事務局)

それは非常に難しい問題でもありまして、こちら側だけで何か月と決められないところもございます。今後、ワーキンググループに全部かぶせるというわけではありませんけれども、通じてその辺も揉んでいったり、あと、関係課の皆様方のご意見をお聞きしたりして決めていけたらいいなと思っております。

(八木議長)

資料の中に、一番上に政令市ブックスタート実施市、9市の調査があります。実施方法については、健診時に配る、今ほどのビデオの放映もそうでしたけれども、健診時に配るもの、あるいは訪問して配る場合、あるいは単独で独自でやる場合と。例えば、基本的なところは三つほどの方法があると。それから、対象月齢についても、訪問してということになると4か月未満ということになるのでしょうか、9市の中では札幌の10か月あたりが一番大きい月齢になります。やり方によっては配布率なども大分変わってくるということがございます。それぞれ一番望ましい月齢、年齢というものはあるかと思いますが、様々な観点で、それぞれ善し悪しの感触をお持ちになられていると思いますが、それこそ錦委員などはお持ちでしょうから、もしありましたらご意見をお願いします。

(錦委員)

この前、見附市では母子手帳と一緒にブックスタートを始めたという話を聞きました。子どもが生まれないうちからお母さん、保護者に、こういう絵本という世界があるのだということを知らせるのに、妊娠中からブックスタートを始めたというところもあるとは聞きましたけれども、今までの例ですと、大体10か月くらいとはいわれています。しかし、それはあくまでも目安ですからよく分かりません。ただ、私は1歳よりは4か月とか、2歳よりは1歳という感

じはします。というのは、親の心構えが違うと思うのです。母親、父親になるのも、何しろ何もかもが初めて、ましてや絵本も初めて、自分が読んでもらったことのある人たちですら、いつころから両親に読んでもらったのかという記憶も定かではないと思うのですけれども、できれば10か月前のほうがいいような気はいたします。

(事務局)

先ほどのビデオを作成しましたNPOブックスタートの調査では、2008年度の状況ですけれども、実施している市町村の割合ですけれども、4か月までのお子さんを対象にしているところは44%、それから7か月までのお子さん対象が27%、10か月までのお子さん対象が18%ということで、やはり圧倒的に10か月までのお子さん対象が多くございます。1歳までですと7%になり、1歳半になりますと4%という、それぞれ各市町村の状況でございます。できれば、私どもも1歳未満とは考えておりますけれども、山下委員、いかがでしょうか。

(山下委員)

いろいろな問題があるのではないかと考えていて、すべての子どもに、赤ちゃんに手渡したいということになると、配布の場所としては健診会場がいいのだろうとは思いますが、新潟市、特に旧市域においては健診会場が子どもの人数に対して狭かったりということも聞いています。そうすると、先ほどのビデオの中にあつたように、ゆったりとした雰囲気絵本が手渡せるかということ、そこも難しいかと思えます。これからいろいろな健診のやり方を調査して決めていくことになるのではないかと思えます。ただ、時期としては、できれば1歳前に手渡したいと思えます。錦委員がおっしゃったように、子どもに絵本を読んであげたときに、子どもが絵本のストーリーを理解して楽しむというのは、確かに10か月くらいがめどになるのではないかとと思うのですが、親と子の関係をつくるということで考えたときには、できれば早い時期に、4か月くらいから渡すことができたらいいなかなと思います。ただ、条件との兼ね合いというものもあるのではないかと考えています。

(錦委員)

手渡す側ではなくて、子どもにとってどうか、赤ん坊にとってどうかという視点も入れてほしいとは思いますが。

(正道委員)

子ども読書活動推進計画のときでも話題になったのですが、今、両極が言われているのです。子育てに熱心なお母さんは本当に熱心で、それはストレスになるくらい熱心で、どう子どもに対処したらいいか、絵本も早い方がいいのではないかと同時に、逆に、先ほど錦委員がおっしゃいましたように、おっぱいを飲ませながら携帯をしているとか、おっぱいを飲ませながらたばこを吸っているということもあるわけです。あるいは、初

めてのお子さんで、昔だったら近所に小さい子どもがいたり、子どもに接する機会もあったと思うのですけれども、今だと初めて子どもを持って、この子どもにどう関わっていいかわからないというお母さんがけっこういらっしゃるのです。子育てサロンなどをやってもそうですし、そういう話を保健師や保育園の先生なども聞くのですけれども、赤ちゃんをどうだっこしていいかわからない、あやしてあげればいいのかよと言っても、あやすというのがどういうことかもわからない。そういうときに、絵本が一つのツールになるのです。今日も持ってきましてけれども、例えば、『いないいないばあ』。昔ならいないいないばあは普通にできたことを知らない、それを絵本を読むことによってお母さんが知る機会になる。それを考えますと、やはり1歳よりも低い年齢。

もう一つ、私が言いたいのは、新潟市に生まれたすべての赤ちゃんと保護者に配る、手渡すというときには、例えば、本だけ先に渡して、あとで説明するから図書館に来てください、公民館に来てくださいだと、関心がある方はおいでになりますけれども、例えば産休が開けてパートに勤めています、わざわざ子どものためにその時間を取ることはできませんとなると、やはり健診の会場で一緒にしてもらった方がお母さんのためにもなりますし、子どものためにもなるのではないかと思います。そういう意味で、やはり私は健診会場がよいと思います。

以前は私、4か月では早いと思いました。6か月くらいかなと思ったのですけれども、実際にブックスタートをやっている知り合いなどに聞きますと、4か月できちんと反応するというのです。4か月、5か月くらいでじっと読むお母さんの顔を見たり、絵を見たり。絵本に描いてあるものが現実にある、すぐ身近にあるものですから、それらに反応するのです。例えば5か月健診なり4か月ということであれば、4か月でも早すぎることはないのではないか、絵本だけ手渡してあとで説明するより健診会場のほうがいいのではないかと思います。

(八木議長)

神林委員、何かございますか。

(神林委員)

図書館の貸出カードをそのとき現場で作れないのかということをお願いできないかと思ったのですけれども、子どもの貸出カードを図書館へ出向いて作るときというのは、けっこう難しいのです。親のあれがいるとか、一緒に来ないとだめだとか、親の証明をしなければだめだとかということがあるので、貸出カードはビデオでは申込書だけをやっていましたけれども、直接その場で作れるような手配はできないかと思っているのです。親が貸出カードを持っていない人は親のカードでその場で一緒に、一番証明になりますよね、健診のときというのは。そう思っていました。

(八木議長)

図書館に対する要望です。

渡辺委員、いかがですか。どうしてもここら辺はこういう方向で検討してほしいというような部分などありましたら。

(渡辺委員)

確かに、対象年齢は、大体子どもを預けてお母さんが講座を受けたりするときも、6か月以上というくらいに、子どもさんがまず預けられる年齢という、人として、もし預けられても大丈夫だろうという年齢というのはあるのではないかと思うので、お子さんがほかの人たちとコミュニケーションを取りながら絵本なども楽しめるのはやはり6か月くらいかなと私は思っています。

あと、本当に一人一人に確実に手渡してほしいというのが希望でして、子どもさんの豊かな育ちのために必要だということも大事なのですが、子育てしている親御さんが絵本をとおして、そしてその絵本を手渡す人とおしてこれからの子育てが楽しくできるような導きの場になるようなきっかけを逆につくってあげたい。絵本は、先ほどのビデオでも言っていましたけれども、道具と一緒に、そういう道具を使って人と結びつけるきっかけになるような場所を設定してほしいなと思っていますので、会場など難しいかもしれませんが、そういう健診の場や公民館等を利用させてもらえるのかとか、自治会などの地域の方々のボランティアなども含めて、本当に身近な人たちが一緒に関わりながら手渡せる方法があるといいと思っています。

(八木議長)

行政側の委員の方にはワーキングチームの叩きを作ってもらう予定ですが、その際にこの辺を特に気をつけてというようなところなどがあれば。

(玉木委員)

政令指定都市の状況を見ると、配布率100%のところとそうでないところがありますが、この理由がよく分かりません。大阪は配布率100%なのですけれども、ほかのところでは低いもの、高いものがありますよね。健診時に配っていながら95%となると、5%の人たちは、家族はどうしているのかという疑問です。分かったらいいのですけれども。

(山下委員)

この大阪の100%は、3か月検診に来なかった方にもアフターフォローしているということなのです。そのフォローの内容は分かりかねますが、もしかしたら、今、「こんにちは赤ちゃん事業」というものが4か月前までのお子さんの家庭にうかがうことになるので、そういうところで渡すとか、あるいはお送りするということが考えられるかと思います。全ての自治体が、

そのようにフォローしたところまでの配布率かどうかというのは少し疑問です。大阪はたまたまフォローして100%になっているけれども、あとは、やはりどうしても同じような健診でも参加率は都市によって違ってくるということかと思います。

(木村委員)

ブックスタートが何か月がいいかという議論の前に、それぞれの自治体でやっている健診の月数がありますよね。新潟市の場合は4か月、次が1歳6か月、3歳という形になるので、1歳未満であれば必然的に、確かに6か月がいいとか8か月がいいというのは分かるのですが、その4か月ありきになってしまうのです、現時点でいうと。その辺を保健所に聞きたいのですけれども、健診時期の4か月とか3か月とか、それぞれの自治体によって違うようなのですが、どのようにして決めているのか。なぜ4か月なのか、あるいは、ブックスタートのためにではないのですが、必要に応じて6か月健診にしましょうということが可能なかどうかということ保健所に聞きたいと思います。

(安達委員)

1歳6か月と3歳は、今までの仕分けのものがあまして、少し見ていたのですが、1歳6か月、3歳は母子保健法に自治体がやらなければならないと書いてあるのですけれども、乳児健診は乳児期に2回以上やってくださいというように書いてあって、ほとんどのところでやられています。その2回をいつといつにするかというのは自治体に任されているようなのです。新潟市は3か月と10か月を乳児健診としてやっていますが、これは小児科に委託しております。それこそ母子手帳配布のときにもらった健診の無料券を持って近くの小児科に行って健診を受けるということですので、私ども保健師と会うということはないわけです。

ただ、新潟市は以前から股関節の病気を早いうちに見つければ、早く治すことができるということで、いつくらいから始まったのか分からないのですけれども、ずっと新潟市でやられていまして、今も股関節検診というものだけ、4か月前後なのですけれども、お子さんに個人通知をしまして、来ていただいています。それは市独自でやる検診です。

(木村委員)

要は、集団でやるのは股関節しかないということで、あとは個別だということですか。

(安達委員)

そうです。個別で委託健診になっているということです。

(木村委員)

そうすると、先ほど見たような形にはなりませんよね。やるとしたら股関節検診ということですね。

股関節は全員受けるのですか。

(安達委員)

前はレントゲンで診断してしまして、放射線をかけるのがよくないのではないかといろいろありまして、よく分からないのですが、6、7割くらいの受診率だったのですが、今はエコーでやるのです。そうになりましたら、自己負担額が少し上がったのですけれども、逆に受診率が、安心感があるのでしょうか、上がりまして、9割くらいの受診率はあると思います。

(八木議長)

18か月健診と3年目の36か月健診は義務づけ、あとは1年未満で2回ということで、新潟市では任意で、3、4か月の股関節検診と。

(安達委員)

3と10とその股関節検診です。

(八木議長)

3と10のほかに股関節検診ですか。3と10というのは委託ですか。

(安達委員)

そうです。

(八木議長)

そうすると、個別に、集団健診は4か月健診しかないということになるのですか。

(安達委員)

さようでございます。

(事務局)

実は、この政令指定都市のブックスタートの実施状況なのですが、今、大阪の話が出てしまして、3か月検診ということなのですが、昨年の途中から、健診の会場でやるというのは中止になっているのです。ここではこういうまとめ方になっているのですが、それぞれやっという自治体でも、どういう課題があるかということ、健診会場が狭かったり時間がなかったりで難しいというような意見もたくさん書かれていました。ということで考えると、なるべく大勢の子どもにいちどきに渡すことができるのが健診会場なのですが、ほかの自治体、これは政令指定都市だけではなくて、ほかのところを調べても、図書館や公民館やほかの施設を利用して単独実施しているところもあるというのは事実のところです。

(正道委員)

年間計画の中で、ボランティア300人くらいを養成したいという数字の根拠はどういうところから来ているのでしょうか。つまり、集団健診の場において、ボランティアに入っていて、受診の待ち時間などに何かするという設定での数字なのか、あるいは、保健婦と一緒に訪問のときに付いて行って何かするとか、あるいは保健婦にそれをやらせてもらうのは無理だと思

うのですけれども、そのボランティアの数という根拠は何でしょうか。

(事務局)

300人という数字は、昨年度、子ども読書活動推進計画の策定の際にブックスタートという言葉が上がってまいりましたので、長岡に見学に行かせていただいたのです。長岡では、健診会場で実施しておりまして、1対1で、ボランティア1人対親子1組に対して読み聞かせをやっていたと。そこでの数字をいただきまして、新潟市で1組対1人でやるとこういう数字になるのではないかとということで出したものです。これは最大ということになるかと思っておりますので、できる限り、場所はどこであっても1対1でやるのが一番望ましいというように考えております。

(八木議長)

新潟市の1歳児の年齢が6,500人いるということで、その6,500人に個別に一組ずつ読み聞かせをし、お話をさせてもらうということで考えたときに、1回当たりの時間の長さもありますけれども、恐らく300人くらいは必要だろうということなのです。恐らく、最低300人とおおよっぱに思っているということなのですけれども。

(正道委員)

そうしますと、ご家庭に訪問していくということではなくて、健診の会場、あるいは別の時間や何かを設定したときに、親子でその会場に来ていただくという形なわけですね。

それと、股関節検診のほうで大体9割の受診があるということだったのですけれども、それよりも月齢が上になって親子で全員が集まってくる、かなり割合が高いような健診とかそういうような集まりはあるのでしょうか。

(安達委員)

先ほど申しあげましたように、乳児期は個別健診が2回ということですので、集団でやる健診は1歳半健診までありませんが、ただ、新潟市独自のことで、1歳のときにお誕生歯科検診というものをやっております。すみません、これは受診率を持ってきませんでしたが、やはり9割前後かと思えます。1歳は歯科検診だけです。

(山下委員)

1組1組でやった場合は300人いれば何とかなるかと思っておりますが。

(正道委員)

健診であれ特別な会場であれ、来てもらっての1対1のことですね。

(八木議長)

逆に言えば、ボランティアにお願いできる数によって、またやり方も変わってくるのかもしれないけれども。

会場ややり方については、かなり条件設定が非常に難しいところもございますので、こちらの行政内部のチームで横の連携を図りながら検討させていただいて、これならばできるという辺りを探らせていただいて、また9月初旬くらいでしょうか、第2回目にご提案させていただければと思いますが、よろしゅうございますか。

(正道委員)

また私は語句にこだわると言われてしまうのですけれども、「ブックスタート事業の推進について」の「2 目的」のところなのですが、私はどうもこれは順序が逆なように思うのです。「乳幼児を持つ保護者に読み聞かせの大切さを理解してもらおう」とあるのですけれども、併せてのあとのほうが先に来るべきではないかと思うのです。両方書いてあるからいいのではないかという感じはするのですけれども、乳幼児と保護者が絵本を介してゆったりとした心のふれ合いをもつための一助となるように支援し、併せて、乳幼児期から日常的に絵本に親しむ気運を養成する。どちらをメインにするか、実は私は新聞を見たときに、あちゃっと思ってしまったのです。新聞のコピーがありましたけれども、親子に絵本をというものがありまして、ブックスタートが絵本を手渡す場所でおしまい的なように新聞の見出しから取られてしまうのではないかという感じがとてましたのです。そうではなくて、目的は親と子のいい関係を、お母さん一人で頑張らなくてもいいのだと、市でも応援しているし、ボランティアも応援しているのだというようなメッセージを伝えていくということがブックスタートに関してはメインではないかと。子ども読書と少し離れてしまうのですけれども、本来のブックスタートの意味は私はそこにあるような気がするのです。それで、併せて、絵本を手渡すという、ついぞと言っては悪いですが、身近に絵本のある環境をつくるために絵本を手渡すということのような気がするのです。

(事務局)

そのとおりだと思いますので、直させていただきます。

(渡辺委員)

先ほど、6月にボランティアのアンケート調査をすると伺ったのですが、そのときに、ブックスタートに何回関われるかとかそういうようなことを調査して、あとどのくらい、これから新しいボランティアを養成するかということが多分検討されるのだと思うのですけれども、地域によってとても温度差があると思うのです。例えば、この中央図書館のボランティアの人数と、私は今北区に住んでいますが、北区なら豊栄、新津とか白根のボランティアの人数とか、そのボランティアの人数によってやり方もまた変わってくると思うのです。その辺のところは、アンケート調査を受けて、各地区の図書館に事務局として任せるといったような感じで先ほどお話をされてましたよね。そういう形で受け止めていいのでしょうか。

(事務局)

基本的には、足りないところ、市で募集してもまだ足りなかったりするようなところは、事務局で調整させていただきます。区で調整というのは、今回はどの方をお願いするとか、そういったような調整のつもりでおります。基本的に、その募集も講座も調整も中央図書館でやる予定です。

5 その他

(八木議長)

次第の5番、「その他」ですが、何か事務局からございますか。

(事務局)

今回は事務局の不手際が多々あり、申しわけございませんでした。次回の推進委員会は、先ほど来何回もお願いしておりますが、9月の初めを予定しております。また、日程調整等の連絡をさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。また、ワーキンググループの構成員を選任してくださった各課の皆様、大変ありがとうございました。次週6月8日火曜日に、第1回の会議を開催したいと思っております。今、起案中でございまして、じきに各課長のところにメールでお願いしたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

6 閉 会

(八木議長)

では、ほかにはないようですので、第1回ブックスタート推進委員会をこれで終了させていただきます。お忙しい中、ありがとうございました。